うたせ丸

はくさく 著一
哥を名ざをり

Murasaki Shikibu

[V. 3]

PL788
.4
.G4
1654
vol.3
copy 1
Asian
Japan
Cage

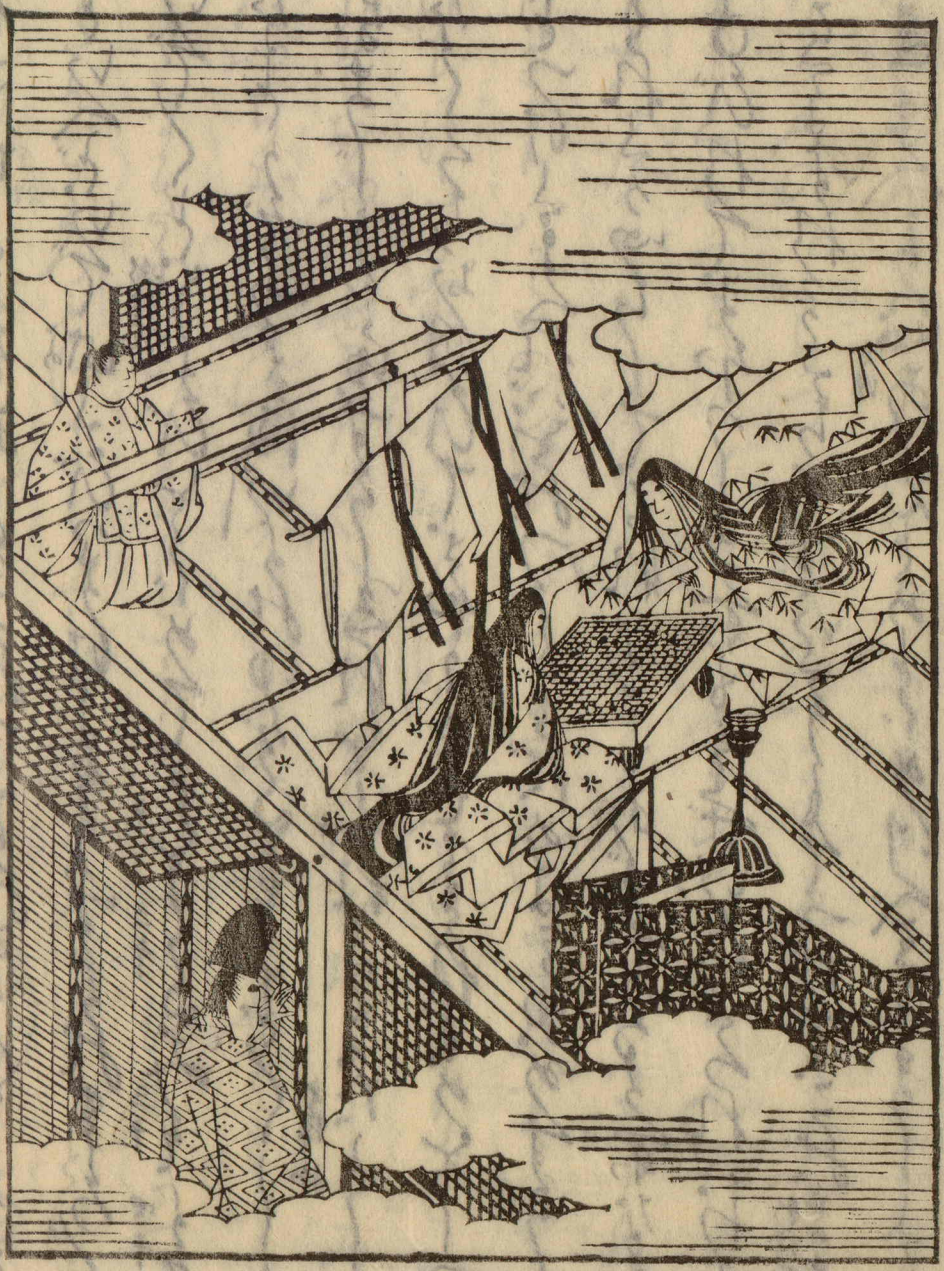
ウツセミ 八一

200455302

秋(源)われいく人なにうまれてもか
らんあさましかりけんそでめてうしとせ氏おもひ
とりめれいぶそぐうてなぐさまぐくそせひ
なりめれなどのたへ(小云)涙をえこぼしてかうよう
いぶ(源心)らうたうとおぼしてさぐりれはそくちいさき
ほどうれいとなぐさぐさしけそひのさ後ようよ
ひさうもせひなうあれるうたうるうち
うづひどうううんもひとわろうえべくもあ
やうめぐ後ぐそあうつれいのやうな
ものおひまひいさぐ我かういでまへぐこのこい
いとおしくさうぐしくとやみあ(き技心)もなみく

わろ(小忘)われどころどころそれどころどころそれものこ
まひまひまひま

いとおろおろしげにつぶやくところで、そのろうなる人のうらうらひさしつきもれあかやうなるまくらもとあいぎやうつきやうやうなるうちなりこゝいとよるやうやうてるつくいあるねどさうびうるのほどいとさびしげにすべていやひがひがしうなくおろしげるる人どもそうむべこそおやのせまなくいおもつゝめとおろしくみ給ひちそ行ひつゞけるうけをそへぐやとみとゞめゆゑなどなきふいあるまでにうちとけてけちえみやうりうろよげにてさはくそうさうどけいあるのひとゝいとさびうるのどめてやうたうの人や

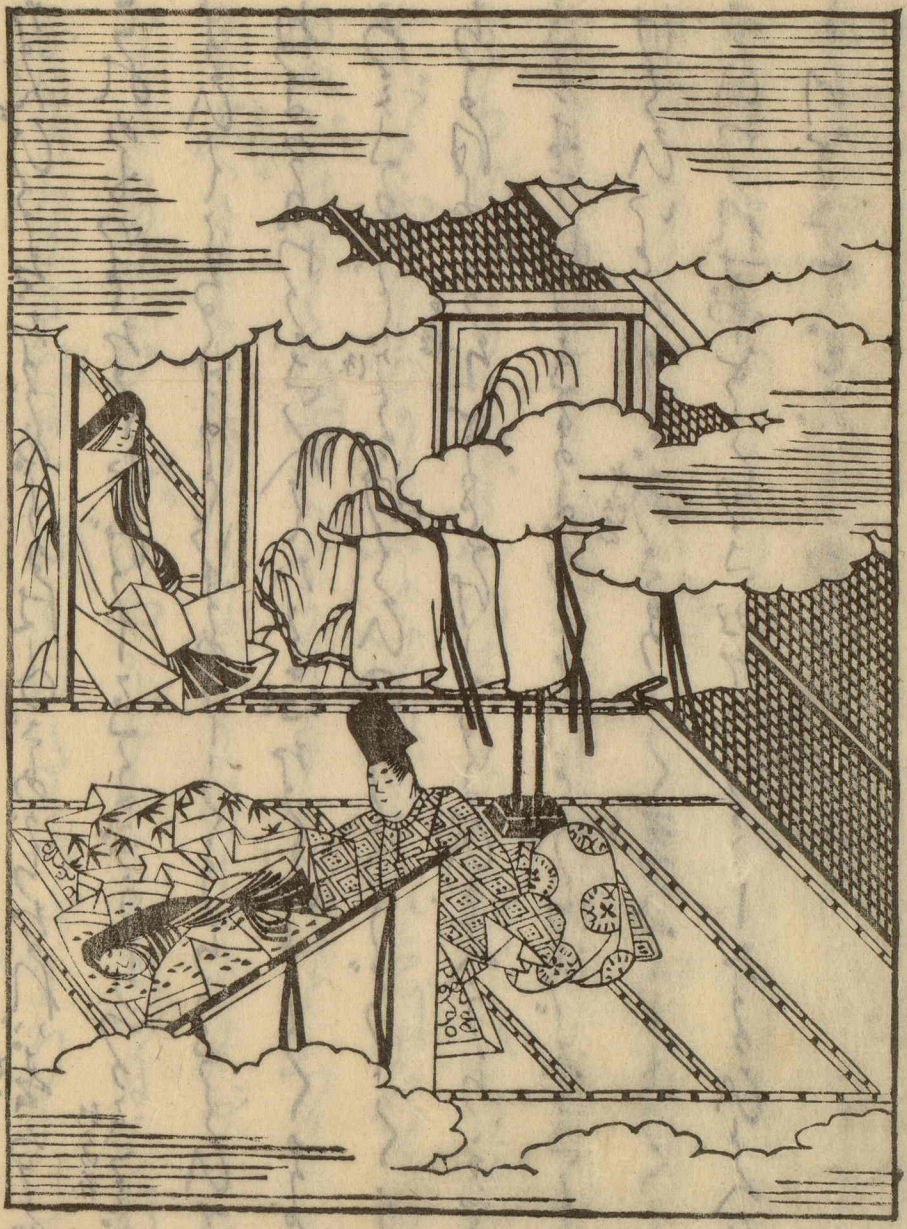


とアぐらをかきてゐるもあり。いとこそ（小志心）ぐしきもあり。れいなるもあり。人はそ（小志汀）えちらうちもちゆゑ。そこそこにひもやくべてんとするもあり。いてあきまうけをしてあぐべきれとのものへぶなどして（小志汀）うるもあり。なんだうりなどさゝせ（添心）るもあり。うちはべりさまざまにてあるわらはなれどおのぶ〳〵人の気色（けしき）こゝろえてまれるをとゞめ（小志汀）ぬるもあり。ごうらうそうやあらんうちそよめきてひとぐあぐるけしきなどもするもあり。わらはみ（小志汀ね主汀）はいづてまおそうまなるんゝみのみそうしいきてんとてなるみなり。こびまりめなるうりてさゝば（原汀）

ぞれとのたまふに（小志心）（宇陸）（ミ）もいまもうもれたるこころぐるしくむねのくまもあばらにぞいでくるあはれさのみまさりて人ずくなるこんりょうれをもとなげふなりうう（原汀）それも

ひさしくあまもねざるべしとそれらいかゞ
わらんべもそるまよいつゝてうめれいぶ(ふ)とぐらりそ
らわらひてたあるさるまゝ尋(びっくり)ぶをひろげてうけ
はのるまゝやをらいれまる(そま)いう(添心)まぞおこがまし
さまもいとくおぼすよいとつまゝくれど
くらびくまゝよゝやのまゝのるびひさなみ
てうまやをらいりまゝとすれどこれをばまわる
のれぞみそこひやくうなるまもいとうるう
そうおい(添心)さまそみれのみをうれわさまよひ
なをど・あやまく尋(ゆう)のやうなるまをゆるまわる
ふりなるまこひ(ひろ)てゝ心ろけいろぶこわれ

なんぴとをなどめでうけしひざめぐらなれば雲母あ
れめもいとなくなげくなるべしこうちつづきこ
ひてくるるよいまめくくちうつしてねよそうかさ
へくなるぶなくいとくまでろこころべくうけひのいとうぐくう
ちうはるをまげてうぐひとへうちうまうまれすうまるうれどうちうさう
けうひいとうまうまくいてともくもそひわれずやうまうさ
とりをそそびりまるうう



（添心）
志くいろのまで・ごひとうつてくろくぶやすく
おぼす・おやのもとに三人ぐらゐでうつてくろさあ
もーやりてくろうのうさよ・おう（そ）ーけくひとう
くもみくちくおぼゆる道どうぞはーもうず
うーいうぐるうさうさ女などぞ・あやーくうう
うーやうくみ（新古今歌とも）あくまうーのまで・あくまうーくうさ
ろやまーれど・ひとうごへとうぐうてみとん
もおこぐまうーく・あやーとおもべし・ほいの人（本経）
とうぐよろんも・ぐぐうのぐうこうろあれた・
ひとくおうまうそおもうあとおぼす・おのう（おうの誤）
うつるぬげなうぶいごはをんとおぼーなる

もわろきれころあくなありうくやう
先きあてことおぼしずあきまくこさいかされろ
ろくさそてなるよふうくいとろくさそうくいも
なく世中(よのなか)をまろさひそあ(ば)れりかれぐそん
ろかるそてあくまもおもひまとうずおれとも(心)
ちをでとおもはもだいうてうろことぞと
のろるさひめでくさんもわろめもたことまもあう
ねど(あ)あれつくさへの(文字)ろるだ(ば)よふだつむさ
すでよてあそれぶそびくのれろるたべふこと
つけろまひくさ海とうろうひなろ(ら)ろたと
そんへやしはべそれど(ま)まろいとわろさうち

ささそさしすぎさうやうなれどえてよさひわ
ずよう(深心)とたなそれどれそろとうべうめくもる
さうちて・なんそれうれさ人(之)の心をいうづく
ひ留すいびこるくひまざれてうそうるとと思井(かい)
うくんうくそうねう人にうりうさものとと学(がく)
もあやうくまざれづくやひそれ給
(彩絵装)それ人のなるふなく・うやうるけくひもあくれ
なればさすづよなるけくそくちぐうをも給
(添)人そうそうそうもねうなうはあくれもそよ
そくなんそそのくもうひけうひさひ給へよ
つむとなさうてもあくねばずちぐふよも

えまうまでくなんありけるをみてべさんへでも
ゆうされでうとうわてひのいてくなんとすれそる
まちのへなどなくさくうてひのへのさひ
ねんことをくづくるをんえ(さ)をすまでさ
とうまるくいふなべてひとまちせでくて
うめこれちいさくへつくへてさうんけ
しさもなくそなのへなどいひをさそこれ
めをさべくうすさ衣(ふ)とりていでまひめ
こぶちくみつるふうのへでうしろめう
さひて孫それでおとなどうさあどをやをこをし
あうるよういうろぶらけこうてうれいうそと

おどろくさまよびこそ（小表出）して、まろぞといふ（よる 仮名消）
おもてもふたなどぞひりもせのとこそ（小表出）
とき御へくとうちふるこてあるぞ（ぞ）
とて（添）おををしいでまろ（まろ）暁ちかき程なる
さいぞおとこのうげこえれば（後連用）
こととふぶんぶれおもてなありてうへあ
おもてれてけぶらうかといふ（地）けうさ人の常（の）
わることをいふなりりおいべこれをつくりて
ありさけとこひていまるで今こちるびしまひ
なんといふくわれもひとうちぞくるびし（添心）
それどえるをしへぞわるどのくちうう

ひそひてうれさうまうればこれみまさー
うりてをもてゆくにひかうへまやまうこひおひりる
みつひりうまやそていとまりなればそて
はおうつをひくずくなりうそめうちばべまう
のぼりうどなくえそよまでくなんとうれて
いへもさうであかくくいまさそむとそて
さめうよう(原)うそいで給(比)ばうありさ
うぐさくあやううりうといよくおばー
うりめべー・こまれ(三条)車のさりそ二条院(原)(さうのゐん)おり
さめありさ(原)汙のそておされうりうとあぐめ
まひて・み人(文字)のこをつまうぐさうりうさ

らひのやうにうちすてゝみえまし
うい蜂(せこ)のあとへてげこみもてなし
人ごゝろのなにうちそめてさうさのこゝろをおとこ(小太)ろ
ひさいれてもちうの人(うつほ物語 俊心)いうおもひもんと
いとおしくれどうぐおもひくへてれと
つてもなうしのうすざあいこうちさみいてゝ
うちさんざるこあるをおもひくなりてつゝみ
まうりこぶんうるいさられいあのぶんまもちつけて
いうぐくの(宇津保物語)おさまうりしにとうまうざうり
てよ人のおもうんこととうぶるるとなんまり
なうさいとうしおるさいしぐへとうしいうなら

ほすとそ。ひざうめのふ（小ぶり）ひざうりみぐるころ
ちくさへどもれてなつこひうりぞうり（文保）そすぐる
らりてこゑのもあけといふいもをもあまもた
ほなれてやなどさふしてでなるばいとうろびう
ろぶれうりまりのまん（新撰菟玖波）もおくびうこさゆうしてて
ひうりのひうりまりまうろうまるさことなれど
人もれどうちなどめておうう。こまのひうりひうり
ようけてもむものとうぶれどれもうてこもる
ひうさまりとうひうろまるくてぶれうゆうち
ねあれ（文保）なるべうれるうろさそもびもれどい
とあさろまもあれそうこうなびうりうぶ

のわづらひなどいとあはれなるものどもの
ぐるれがこれにそうぐのろうるる
宮城野のくるまくるまのこぐれてしのび
志のびよめるを袖ろ

69038
6AP7E